

働くことの意味説く

途上国支援の菅原さんの長内中(久慈)で講演

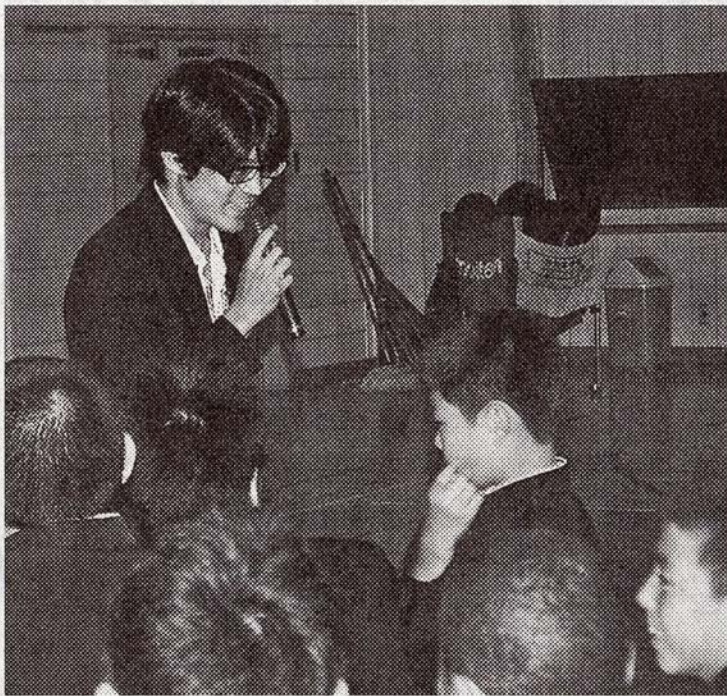
久慈市のNPO法人北いわて未来ラボ(中平均理事長)は8日、同市小久慈町の長内中(関根正彦校長、生徒293人)で講演会を開き、NPO法人シヤプラーニール(東京都)で発展途上国支援を行う菅原伸忠さん(36)が働くことについて生徒たちに助言した。

菅原さんは20歳の時に読んだ本の影響で、国際協力の仕事を目指した。大学院を出てIT企業に就職後に転職したが「紆余曲折したけれど、身に付けたことは全部役に立っている」と回り道も無駄ではないと伝えた。

働くことの意味について「傍(はた)の人を楽にし、会社に入って働くだけが仕事ではない。可能性を絞らず考えて」とエールを送った。

小倉環さん(3年)

菅原さんは20歳の時に読んだ本の影響で、国際協力の仕事を目指した。大学院を出てIT企業に就職後に転職したが「紆余曲折したけれど、身に付けたことは全部役に立っている」と回り道も無駄ではないと伝えた。



生徒たちに働き方などについて伝える菅原伸忠さん

は「世界中の人が幸せに暮らすためには理解を深めることが大切。働くことで社会に貢献したい」と語った。